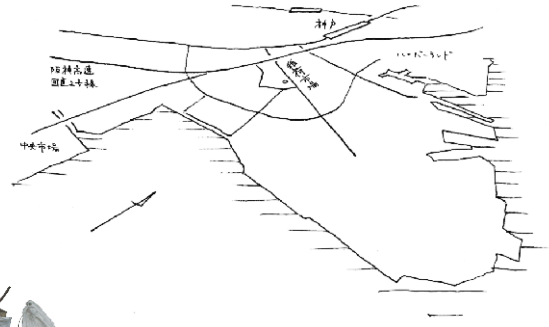
まちのレシピ その4

まちをつくるには建築だけではありません。コミュニケーションも大切な要素のひとつ。
今回は、解体を終えてから材料を「そろえ」ていく様子をご紹介しましょう。
文・写真＝赤松麻衣 もしもし広報担当



1 今回のお題

{ 材料の そろえ方 }

住みコミュニケーションプロジェクト

2 厳選素材

解体作業が完了して、いよいよ工事が始まります。しかし、その前に準備があります。それは材料を調達することです。

材料費をできるだけ安く抑えるため、何軒ものホームセンターへ行き、オリジナルの価格リストをつくりました。リストを参考に、角材はここ、コンパネはここ、ペンキはここという具合に種類によって購入するお店を決定。徐々に材料をそろえていきました。

工事に必要となるものは使う材料だけではありません。さまざまな工具、作業に取り組む人材もこれから集めなければなりません。

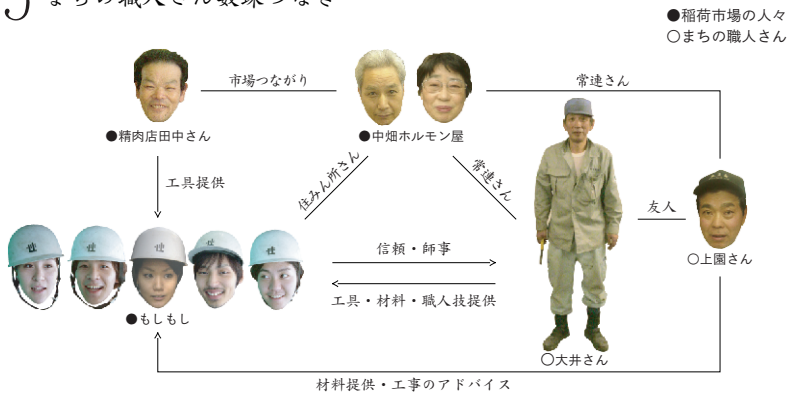
3 一日の始まり

その日その日で必要となる材料がでてくるので、一日は材料調達から始まります。コンパネを選ぶにしても一枚ずつ表情をみながら厳選していきました。

4 運命の出会い

『もしもし』は市場の中畑ホルモン屋でよく休憩をします。ある日お店へいくと、奥にひとり作業着姿でお酒を飲んでいるおじさんがいました。のちの「住み友（工事をきっかけに仲よくなったまちの人）」となる大井義和さんです。このプロジェクトを知る中畑さんのご主人が、電気工事士である大井さんを紹介してくれました。すぐに『もしもし』と意気投合し、その足で作業現場に来てくれました。それから大井さんから飲み仲間の職人さんを紹介してもらい、数珠つなぎでまちの人たちとの輪ができはじめました。

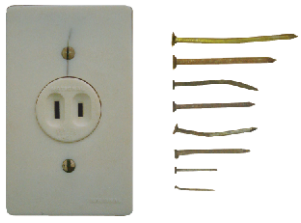
5 まちの職人さん数珠つなぎ



6 職人味のでた工具たち

大井さんは長年使い込んだ工具をたくさん提供してくれました。家の倉庫には油の染みた工具や、電気工事用のパーツがいっぱい。まるで宝箱のようです。

7 住みコミ式再利用法



厳選素材は新しいものばかりではありません。解体作業中に出てきた埋込コンセントを使ったり、古釘の中で再利用できるものはもう一度使うことにしました。

8 準備完了

一番よかったことは、いい人材が集まったことです。稲荷市場のある入江地区は、昔から職人さんが多く住むまちで、市場の常連さんには手に職をつけた人がたくさんいます。市場の人に職人さんを紹介していただき、思いがけない人たちとの交流ができ始めました。そのおかげで、自分たちだけでは集めきれなかったいい材料がそろいました。

お金では買うことのできない職人技や知恵袋に支えられ、ついに工事が始まります。これで準備は完了。次回は、「チカちゃんハウス」1階の工事の様子を紹介します。

新年明けましておめでとうございます。今月からホームページのデザインが新しくなりました。[http://www.sumicomi.com]
今年もよろしくお願いします。住みコミュニケーションプロジェクト事務局（もしもし代表・三宗匠）